

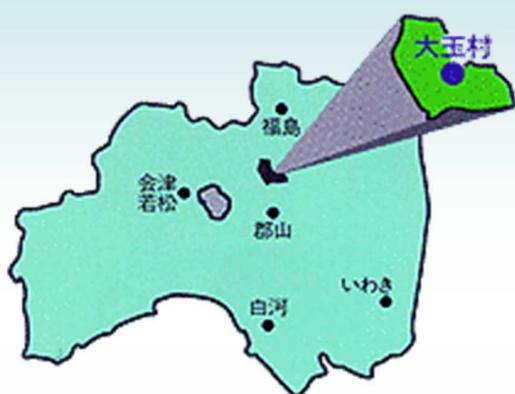
平成24年度 地域とともにある学校づくり推進協議会
(福島会場)

福島県大玉村教育委員会 実践発表資料



大玉村立大山小学校長 安齋 宏之
大玉村CSコーディネーター 伊藤由美子

はじめに(大玉村紹介)



人口	8,574人
(内訳)	
0~14歳	13.8%
15~64歳	63.1%
65歳以上	23.1%

面積	79.46km ²
(内訳)	
農用地	22.2%
森林・原野等	68.0%
道路・河川等	6.1%
宅地	3.7%

学校・幼稚園数	
幼稚園	2園
小学校	2校
中学校	1校

小さくても輝く “大いなる田舎” 大玉村

○基本理念

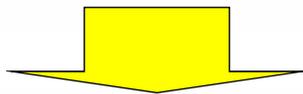
人が定住する活力ある村
安達太良山とともに生きる
一人ひとりを大切にする

○基本目標

力強い産業と広がる交流
みんなで支える安心生活
夢を育てる教育・子育て

小さいは、大きなスケールメリット

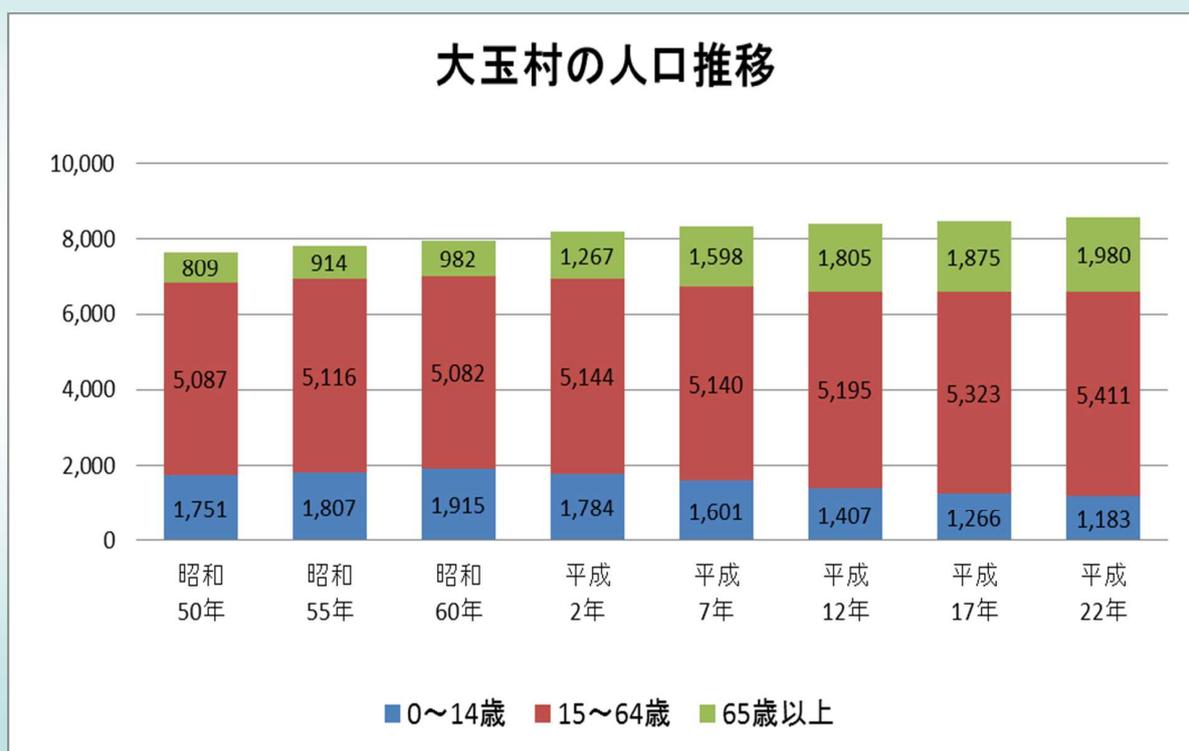
住民に目の届く 住民から手の届く村政
合併せず、自立を選んだ村



人口増作戦⇒人は活力の源
各種子育て支援策
福祉政策 住宅政策

結果は？

微増だが 人口増が続いていた！



1 大玉村のコミュニティ・スクールの概要

(1) コミュニティ・スクール導入の経緯 教育改革の一環としてのコミュニティ・スクール導入

- 人の異動に左右されない学校教育
- 誰でも、いつでも、どこでも学び続けることのできる生涯教育
- 学校教育と生涯教育の連携(学社融合)
- 大玉村のよさ(スケールメリット)を生かす教育

スクール・コミュニティの形成(新たな地域づくり)

<コミュニティ・スクールに至る経過>

時 期	経 過 等
平成18年 4月 1日	押山利一教育長着任
平成20年 4月 1日	指導主事の配置
5月	平成20年度「都道府県・市区町村が主体となる学校の第三者評価に関する調査研究」(文部科学省)受託
5月	「スクールソーシャルワーカー活用事業」受託(県再委託)
平成21年 4月	スクールソーシャルワーカー単独配置
5月17日	大玉村学校支援地域本部設立
7月	平成21年度「コミュニティ・スクール推進事業」受託(県)
7月	平成21年度「第三者評価ガイドラインの策定に向けた実地検証(地方実施型)」(文部科学省)受託

時 期	経 過 等
平成21年 9月	放課後子ども教室開始
12月 6日	「大玉村コミュニティ・スクール推進フォーラム」開催
平成22年 1月	「大玉村教育ビジョン」策定開始
5月	平成22年度「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進への取組」(文部科学省)受託
9月16日	「地域と一体となった学校づくり講演会」開催
9~10月	「教育懇談会」開催(村内5会場)
11月14日	「大玉村教育フォーラム」開催
平成23年 1月13日	学校運営協議会設置に関する協議
3月28日	「大玉村教育ビジョン」完成
4月 1日	「コミュニティ・スクール」スタート

<コミュニティ・スクール導入までの取組>

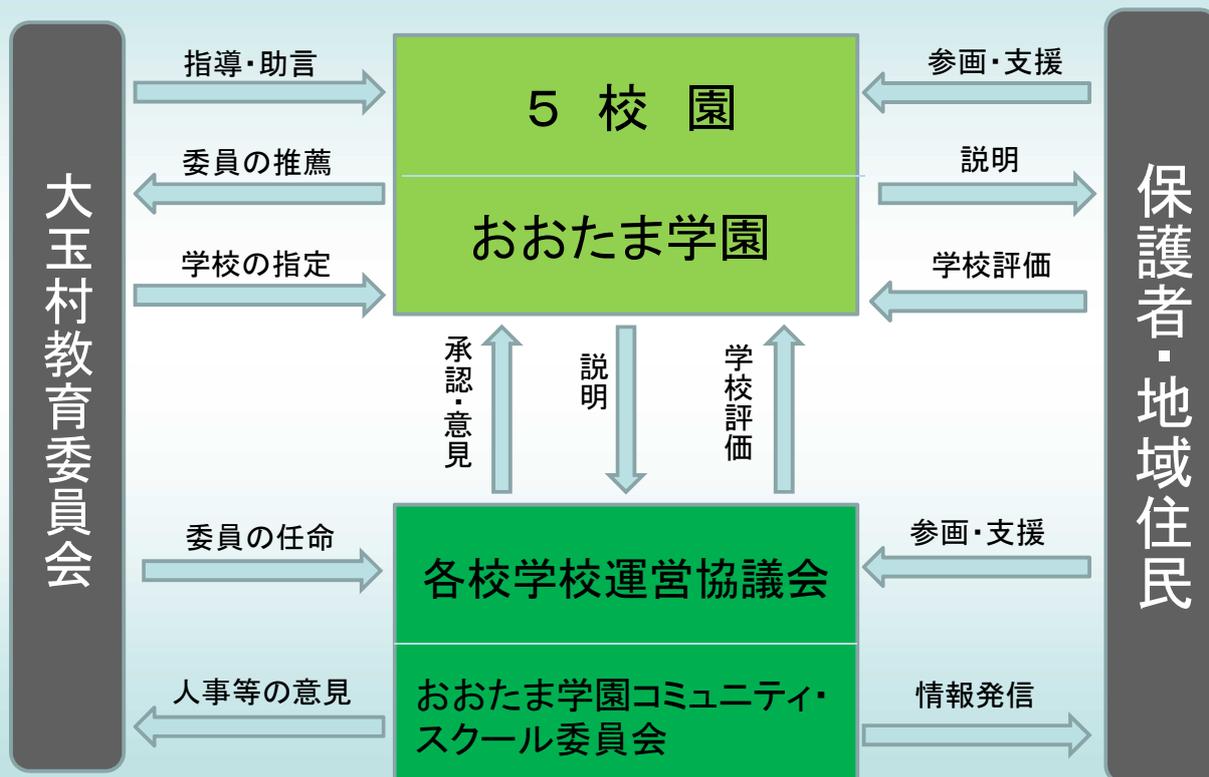
- ① **学校評価システムの構築**(自己評価・学校関係者評価・第三者評価)
 - 学校の現状把握→改善のための「気づき」を促すツール
 - 情報の共有→学校と保護者・地域住民との対話を促すコミュニケーションツールとして
- ② **学校支援地域本部・放課後子ども教室の設立**
 - 保護者、地域住民の参画意識の高揚
- ③ **大玉村教育ビジョンの策定**
 - 明確な教育ビジョンと共有化できる子ども像の設定
- ④ **教育フォーラムの開催**
 - コミュニティ・スクールの理解促進
- ⑤ **幼小中一貫教育の推進**
 - 幼・小、小・中の接続

(2) 大玉村のコミュニティ・スクールの特徴

大玉村は、子どもたちに確かな学力を定着させ、豊かな人間性をはぐくむために、幼稚園と小学校、小学校と中学校の円滑な接続を目指し、平成20年度より、「大玉村幼・小・中連絡協議会」を設置し、5校園(幼稚園2園、小学校2校、中学校1校)内の、様々な課題解決に連携して取り組んできた。23年度からは、コミュニティ・スクールへの移行に合わせ、5校園を「**おおたま学園**」(一つの学園体と見なした呼称)と称することとし、施設分離型の幼小中一貫校を目指すこととした。

そこで、学校運営協議会も、それぞれに運営するのではなく、「おおたま学園」として一体的に運営できるよう、各学校運営協議会で組織する「**おおたま学園コミュニティ・スクール委員会**」を設置することとした。

<コミュニティ・スクールのイメージ>



<コミュニティ・スクール委員会の委員数・構成>

○ 委員数 25名以内

○ 構成

- ・保護者 5名 ・地域住民 10名
- ・当該設置校の校長その他の職員 8名
- ・学識経験者 1名

※ 各校の学校運営協議会の委員とコミュニティ・スクール委員会の委員は、同一メンバーとする。

<事務局>

○ 大玉村コミュニティ・スクールコーディネーター1名

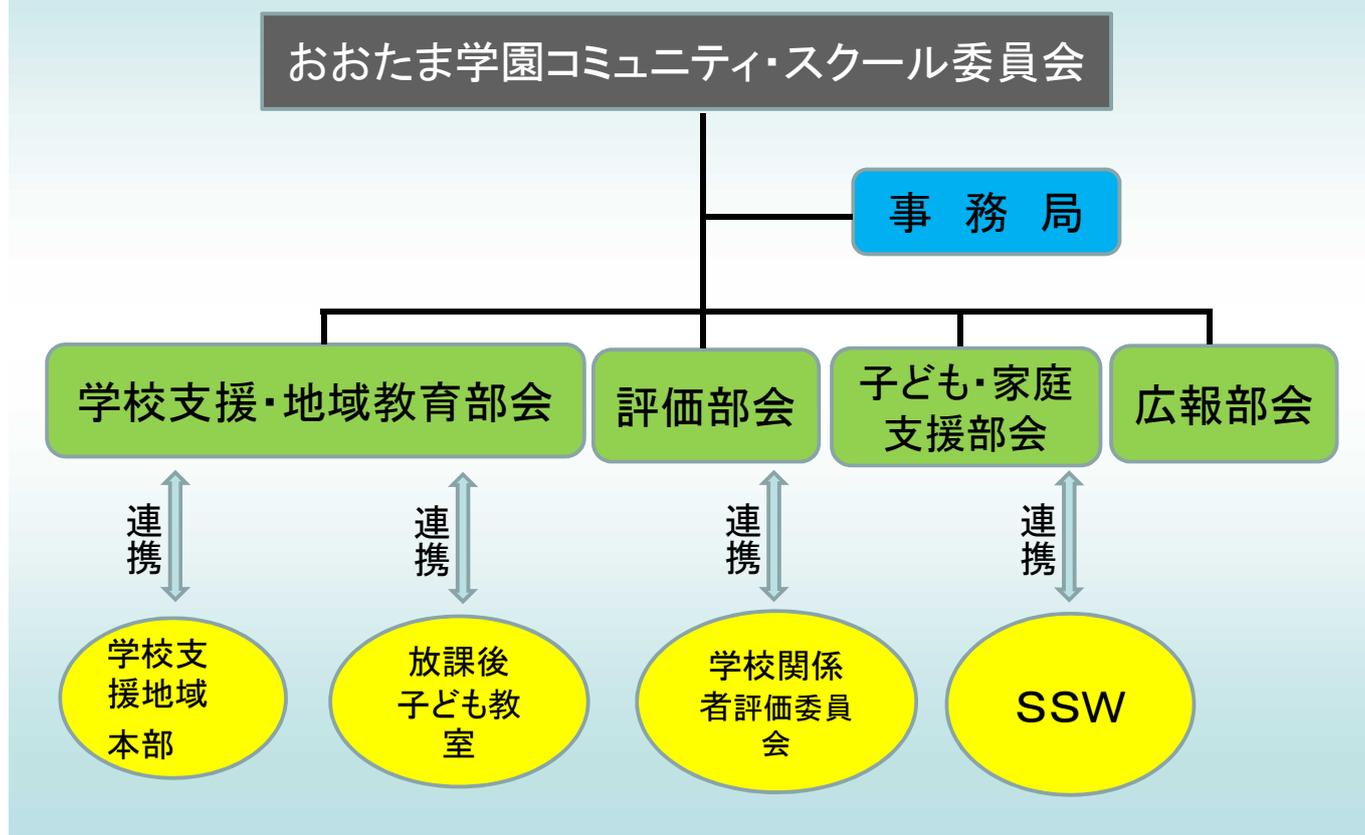
- ・ 会議準備
- ・ 連絡調整

<委員会の開催回数>

○ 年6回

※ 各校訪問、研修会への参加等の活動あり

<コミュニティ・スクール委員会の組織図>



<各部会の活動>

① 学校支援・地域教育部会

学校支援本部と連携し、各校へ学校支援ボランティアを派遣するなどして学校を支援する。また、放課後子ども教室の地域教育協議会と連携し、子どもたちが地域で学ぶ場の企画・運営を行う。

大山幼稚園 運動会用ポンポン作りの支援



大山・玉井小6年の算数合同授業への学習支援



ボランティアさん
(4年生の保護者)

退職教員の
先生

退職教員のかた3名、ボランティアさん3名が参加。

大山子ども教室の様子(毎週金曜日実施)



② 評価部会

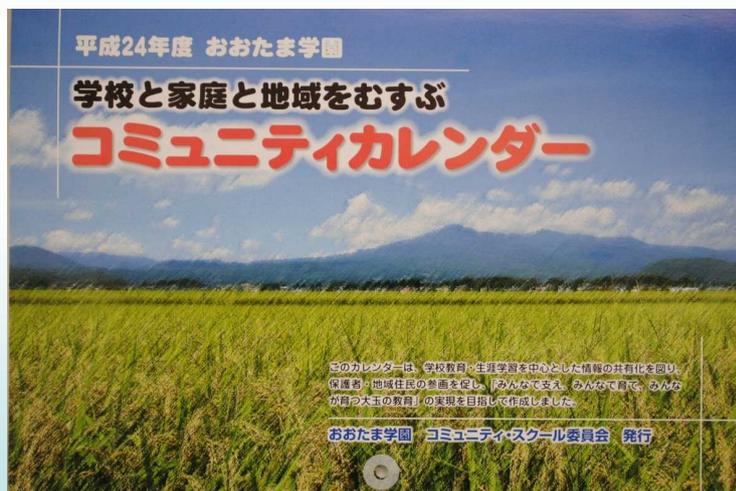
各校の学校関係者評価委員会をメンバーとし、保護者・地域住民・児童生徒へのアンケートやヒアリングにより、おおたま学園への意見や要望を集約するとともに、点検・評価を行い、委員会へ報告する。

③ 子ども・家庭支援部会

スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活動と連携し、子どもたちをめぐる問題の解決に向けたニーズを把握し、支援の在り方を検討・実施する。

④ 広報部会

コミュニティ・スクール便りの発行やコミュニティカレンダーの作成、各校のホームページの作成協力により、コミュニティ・スクールの広報活動を行い、保護者・地域住民等の理解を促進する。

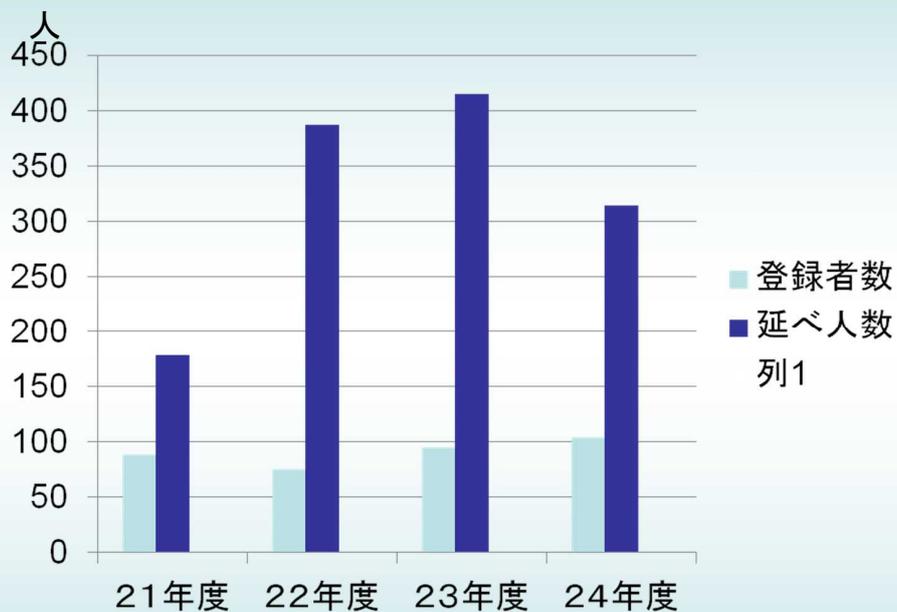


(3) これまでの取組の成果と課題

① 成果

- 保護者、地域住民の学校教育への関心や参画意識が高まった。
- 学校支援ボランティア活動が活発化し、各園、各校の教育活動が充実した。
- 困難な課題(放射線への対応)への対応に対し、委員会の適切な意見や支持が、学校運営への信頼を高めた。
 - ・除染活動
 - ・運動会の開催
 - ・放射線教育

◆ 学校支援ボランティアの登録者数・活動参加延べ人数



24年度は、9月末現在のデータ

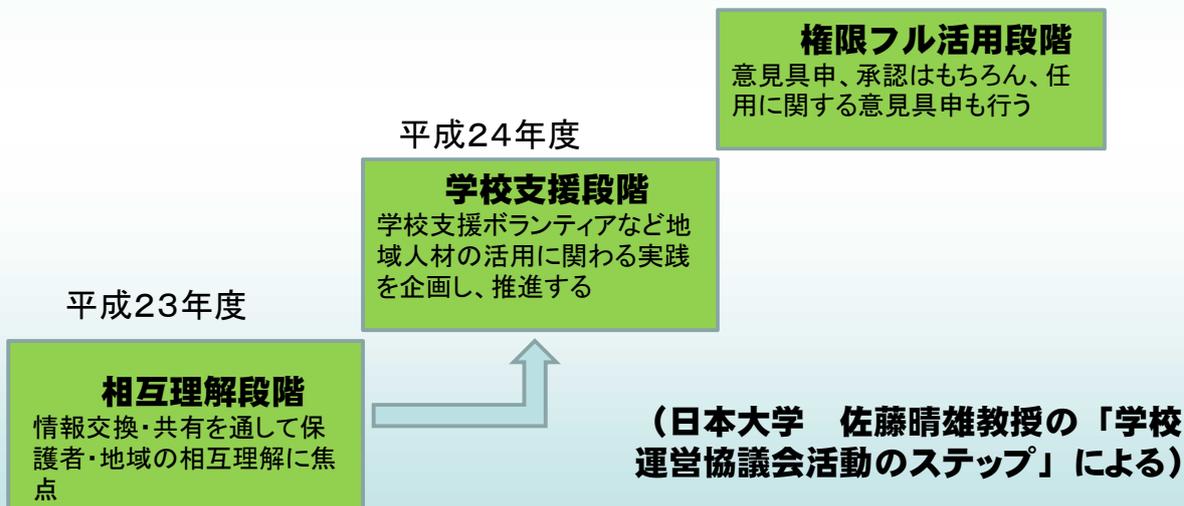
② 課題

- 保護者・地域住民のコミュニティ・スクールに対する理解が、深まらない。
- 委員会の協議が、報告的内容が多く、形式化している。
- 各部会が、機能していない。

2 今年度の取組

(1) 今年度の活動のねらい

「相互理解段階」から「学校支援段階」への
ステップアップ(委員会活動の実質化)



(2) 今年度の改善のポイント

① 委員会の協議の実質化

- 各園、各校、各部会のニーズを踏まえた議題設定
- 協議内容の事前通知
- 話し合いの形態、手法の工夫

熟議

文部科学省の平成24年度「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進への取組」に係る「コミュニティ・スクールの充実・改善に関する実践研究」の受託(調査研究会議の設置)

② 各部会の活性化



- 活動ニーズの洗い出し
 - ・学校から(熟議を生かして)
 - ・地域から(アンケートの活用)
- 地域人材の発掘・活用
 - ・学校支援ボランティアの勧誘
- 部会運営の強化

} 協働

③ コミュニティ・スクールの認知度アップ



- 広報活動の充実(広報部会の活用)
 - ・コミュニティ・スクール便りの充実
 - ・村広報誌への情報掲載
- 教育フォーラムの開催
 - ・年2回

} 発信

(村広報誌9月号に掲載された「おおたま学園コミュニティ・スクール便り」)

*** おおたま学園コミュニティ・スクール委員会便り

第2回のコミュニティ・スクール委員会が7月25日18:30~改善センターに於いて開催されました。各学校園からの報告・提案、先進地視察の報告のあと、本委員会の現状と課題について小グループに分かれて熟議を行いました。熟議は「普及・啓発について」「学校運営協議会のありかたについて」「組織について」を議題として行いました。率直な話し合いから貴重な意見がたくさん出されました。出された意見をもとに、委員会の改善を図っていきます。

※おおたま学園コミュニティ・スクールとは？
村内の幼稚園、小学校、中学校全てを一つの大きな学園に見立てた「おおたま学園」と名付け、子ども達や教職員がお互いの幼稚園・学校を行き来したり、合同で行事に取り組みたりしています。コミュニティ・スクール委員会では年6回の委員会開催や先進地視察、教育フォーラムへの参加などを通して学校の運営や支援等について考えていきます。

議事録も閲覧できます。お問い合わせは教育委員会(48-3139)まで。

3 今後の取組

- (1) 「教育フォーラム2012Part2」の開催
委員会での熟議(これまでの反省を生かして)



開催計画の企画・運営(委員会主体で)

- ・小グループによる話し合い
- ・今日的課題の設定
- ・お楽しみ企画

- (2) 評価を生かしたコミュニティ・スクールの運営

- おおたま学園の学校評価



連 動 → 改善へ



- コミュニティ・スクール委員会の自己評価

・評価部会の活動を中心に



マネジメント力の強化

おわりに

- 大玉村の教育改革は緒に就いたばかり
⇒まだまだ時間と多くの課題解決が必要
- 誰でもいつかはいなくなる(異動等)
⇒それでも動くシステムが大切
- 先進事例に学ぶことは重要だが・・・
⇒カーボンコピーではない、大玉風のコミュニティ・スクールへ



「みんなで支え、みんなで育て、
みんなが育つおおたまの教育」

そして・・・

福島県は、今年が震災・原発事故からの**復興元年**



「学校は、復興の最大の拠点である」



今こそ、コミュニティ・スクール

学校・家庭・地域が一体となって、復興の担い手となる子どもたちを育てていきましょう。

